令和６年度沖縄県ハンセン病問題解決推進協議会
議事概要

１　日　時：　令和６年８月 14 日（水）10 時 30 分～12 時 00 分
２　場　所：　県庁６階第２特別会議室
３　出席者
・平良 仁雄 委員（沖縄ハンセン病回復者の会 共同代表）
・神谷 正和 委員（沖縄ハンセン病回復者の会 事務局長）
・小底 京子 委員（沖縄愛楽園自治会 会長）
・ハンセン病回復者家族　委員（氏名非公表）
・野村 謙 委員（沖縄愛楽園 園長）
・松原 洋孝 委員（宮古南静園 園長）
・亀濱 玲子 委員（ハンセン病と人権市民ネットワーク宮古 共同代表）
・仲程 武（公益財団法人沖縄県ゆうな協会 常務理事）※代理出席
・樋口 美智子 委員（沖縄県ソーシャルワーカー協議会）
・森川 恭剛 委員（琉球大学人文社会学部 教授）※会長
・神谷 誠人 委員（沖縄弁護士会）※生活支援部会長
・西江 里和子（教育庁県立学校教育課 普通教育班 指導主事）※代理出席
・國吉 聡 委員（保健医療介護部地域保健課長）
〈オブザーバー等〉
・鈴木 陽子、辻 央（沖縄愛楽園交流会館 学芸員）※啓発推進部会長
・岩倉 慎 課長補佐（厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課）
・日髙 剛 課長（法務省那覇地方法務局人権擁護課）
・長浜 朝子（教育庁義務教育課）
・湧川 博昭 課長（宮古島市健康増進課）
・金城 百代（名護市健康増進課）
・糸数 公（保健医療介護部長）
※欠席者
・知念 正勝 委員（宮古南静園入所者自治会 連絡員代行）
・神谷 征子 委員（ハンセン病問題ネットワーク沖縄 事務局長）

４　議題
⑴　開会挨拶等（沖縄県、ハンセン病回復者）
⑵　第１回沖縄県ハンセン病問題シンポジウムの開催について
⑶　その他

５　議事概要

⑴　開会挨拶等

- 糸数保健医療介護部長挨拶

- ハンセン病回復者のコメント

・2018 年に「沖縄ハンセン病回復者の会」を結成した。

・同年５月、故翁長知事に対して、ハンセン病回復者が地域で当たり前のように生活できる社会づくりをお願いした。

・2021 年、玉城知事に対して２回目の要請を行った。要請内容としては、県庁内にハンセン病問題解決推進協議会を作ってほしいと要請した。

・2022 年、１回目の協議会が開催され、沖縄県によるハンセン病問題への取組が始まった。

・県内のハンセン病回復者の現状は以下のとおりである。

①沖縄はハンセン病回復者や非入所者、その家族が全国で一番多い。

②ハンセン病退所者給与金の受給者は、全国 806 名であるのに対し、沖縄県は 403 名である（2024 年１月現在）。非入所者を含めると、500 名以上が県内で生活していると言われている。

・シンポジウムでは、ハンセン病回復者や非入所者、その家族の内容を中心テーマとして取り上げてもらいたい。

・ハンセン病回復者は、自分の過去を恐れ、地域の医療機関や各市町村役場の窓口に行くことを躊躇している。

・また、親がハンセン病回復者であるがゆえに、離婚に追い込まれる場合もある。

・さらに、高齢化に伴い、地域での生活も困難となり、再入所する人も増えている。

⑵　第１回沖縄県ハンセン病問題シンポジウムの開催について

・テーマにはサブタイトルとして、「ハンセン病回復者・家族が地域であたりまえに暮らすためには」という内容の文言を追加する。

・趣旨説明にもサブタイトルを追加してほしい。

・シンポジウムでは、高齢化している回復者が抱える課題や一般医療機関に通うことが難しいこと等を話せたらと思う。

・回復者だけでなく、家族が抱える問題（家族の誰にも回復者家族であることを明かせないこと等）についても、参加者に知ってもらいたい。

・家族補償金の対象者は高齢者が多く、特に一人暮らしの高齢者は補償金のことを知っていても、申請の方法が分からない方がいる。

・シンポジウムの広報としては、ラジオが特に効果的と思われる。

・司会者にはタレントの方などを採用してほしい。

⑶　その他

・今年の教員向け講座では、昨年度に作成したリーフレットを使った模擬授業を実施する。